

平成 21 年宮城県の経済動向

概況

平成21年の宮城県経済を振り返ると、生産は、平成20年秋口以降の急速な減産態勢に引き続き、平成21年も低い水準での推移となった。しかし、春以降電子部品・デバイス工業などで生産に持ち直しの動きがみられたことから、鉱工業生産指数（原指数）は年後半にかけて上昇傾向で推移した。住宅投資は、分譲住宅を中心に年間を通じて低調な推移となり、特に春以降はより低い水準で推移した。個人消費は引き続き低調に推移したが、乗用車については年後半に普通車に動きがみられた。また、消費者物価指数は、原油価格高騰の反動による影響もあり低下傾向で推移した。厳しい状況で推移してきた雇用は更に悪化し、より厳しい状況での推移となった。

その一方で、公共投資は、前年度比が大きく増加した。また、企業倒産は、件数、負債総額ともに減少となった。

主要経済指標の推移（前年比，前年同期比）

		平成17年	18	19	20	21					22
						1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	
生産	鉱工業生産指数 ¹	2.0	5.8	0.5	3.9	19.4	32.0	25.0	16.7	1.6	-
	大口電力使用量	1.2	3.5	1.4	1.4	16.2	26.8	22.7	13.8	0.3	-
建設投資	新設住宅着工戸数	9.2	7.4	14.4	21.0	25.2	16.7	28.7	28.3	26.5	-
	公共工事請負金額 ²	8.0	10.2	7.7	5.3	30.7	28.1	70.8	50.5	14.6	7.5
消費	大型小売店販売額	3.3	2.1	2.2	2.1	4.4	4.5	3.6	3.6	5.8	-
	乗用車（軽含）新車登録台数	0.8	1.5	5.2	3.6	5.1	20.2	10.4	4.1	14.6	-
物価	仙台市消費者物価指数 ¹ （生鮮食品を除く総合指数）	0.4	0.1	0.2	1.1	1.7	0.3	1.4	2.7	2.2	-
雇用	有効求人倍率 ³	0.06	0.08	0.00	0.25	0.27	0.31	0.31	0.29	0.19	-
	実質賃金指数 ^{1・4}	-	0.3	5.2	2.7	4.7	0.9	7.5	4.0	5.4	-
倒産	企業倒産件数	3.6	20.7	1.1	3.3	15.4	25.0	18.8	31.1	16.3	-

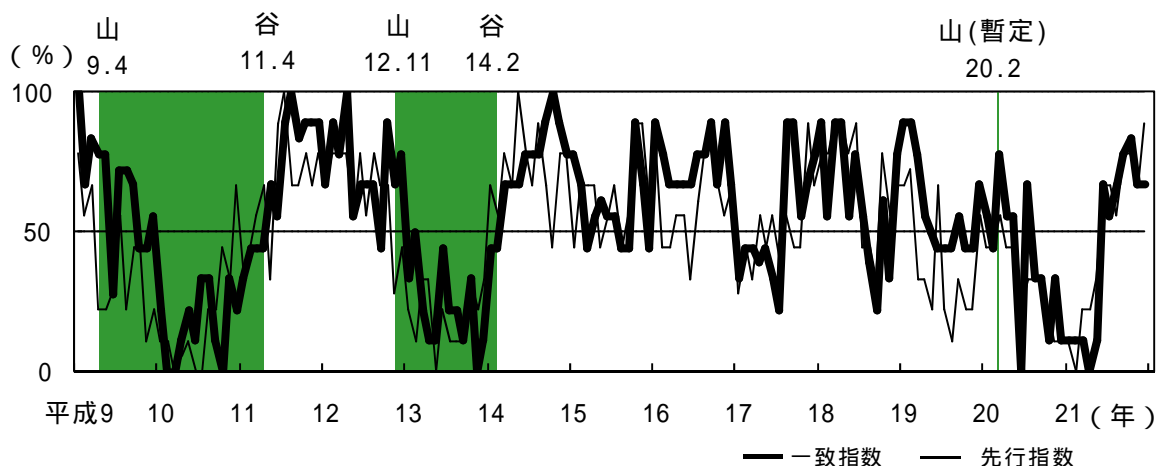
1 鉱工業生産指数，仙台市消費者物価指数，実質賃金指数は平成17年 = 100

2 公共工事請負金額は，年度値

3 有効求人倍率については，前年（同期）差，単位はポイント

4 実質賃金指数は，事業所規模30人以上，製造業，現金給与総額

景気動向指数の推移



（資料：宮城県統計課）

生産

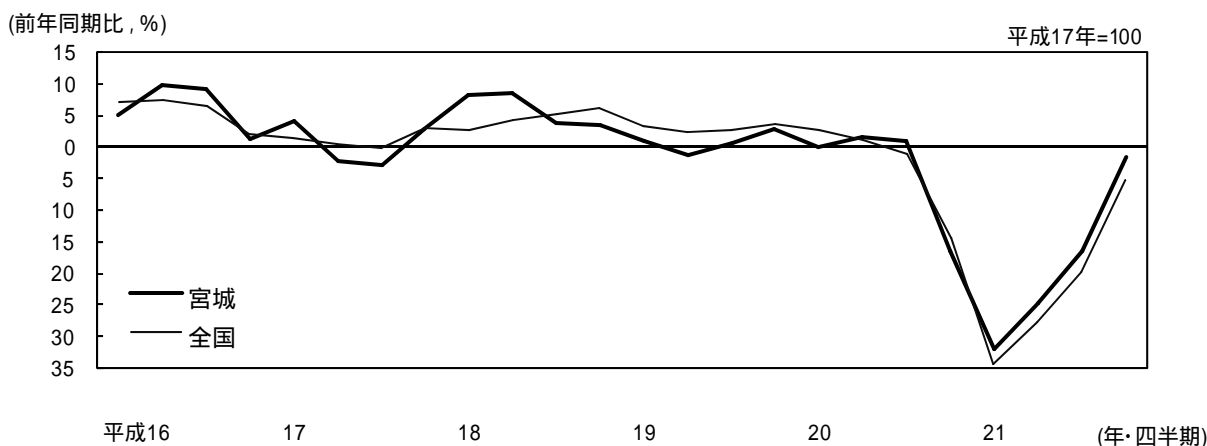
(1) 鉱工業生産指数

平成21年の鉱工業生産指数（原指数）は82.4（平成17年=100）で、前年比19.4%の低下となり、2年連続の低下となった。業種別の前年比をみると、電子部品・デバイス工業，食料品工業，金属製品工業など20業種全てが低下となった。

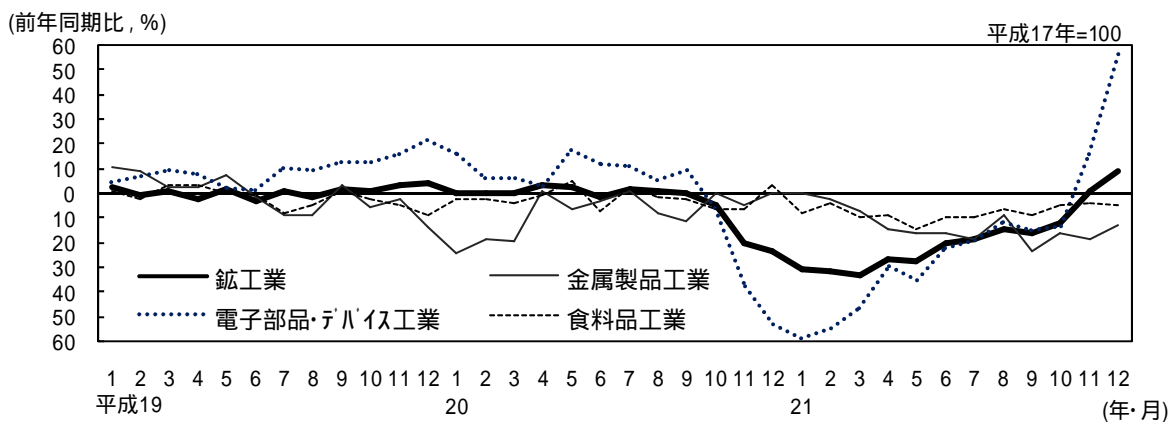
四半期別に年間の推移をみると、年間を通じて前年同期を下回ったが、第2四半期以降、電子部品・デバイス工業などの業種で持ち直しの動きがみられたことから、鉱工業生産指数（原指数）も上昇傾向での推移となった。

ウエイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は第1四半期から第3四半期までは前年同期を下回り、第4四半期には前年同期を上回ったものの、前年比は23.9%の低下となり、2年連続の低下となった。また、食料品工業，金属製品工業，一般機械工業は年間を通じて前年同期を下回った。

四半期別鉱工業生産指数（原指数・前年同期比）の推移（宮城県，全国）



月別宮城県鉱工業生産指数（原指数・前年同期比）の推移



(資料:宮城県統計課)

(2) 大口電力使用量

平成21年の大口電力（契約電力500kW以上）使用量は38億6,805万 kWh で、前年比16.2%の減少となり、2年連続の減少となった。

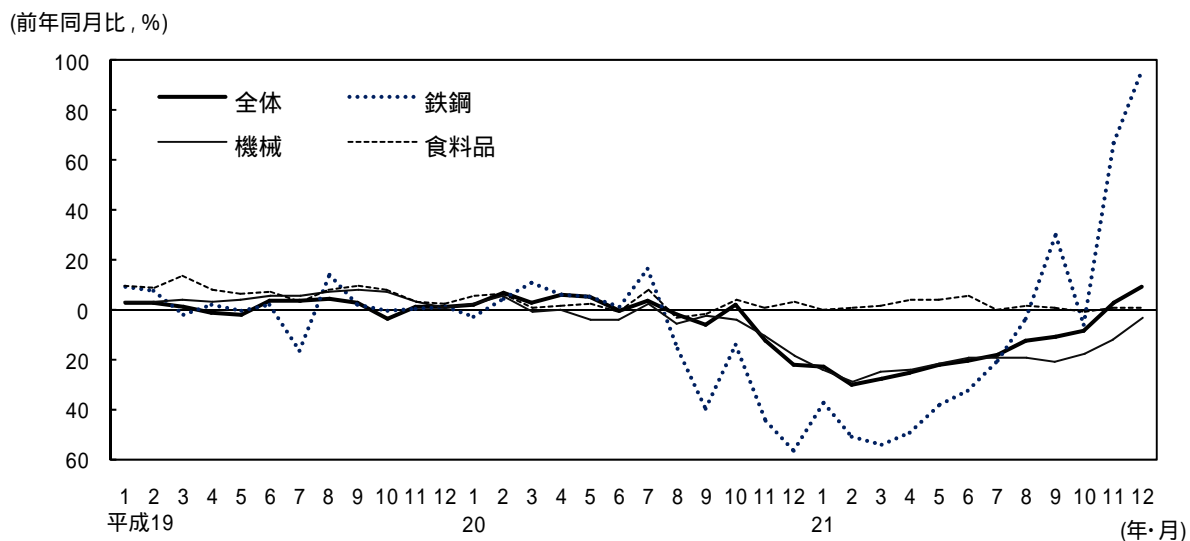
四半期別に年間の推移をみると、第1四半期から第3四半期までは前年同期を下回ったが、第4四半期は前年同期を上回った。

主要業種別にみると、食料品分野は年間を通じて前年同期を上回り、前年比は1.6%増加し、5年連続の増加となった。一方、機械分野は年間を通じて前年同期を下回り、前年比は19.9%減少し、2年連続の減少となった。鉄鋼分野は、第1四半期から第3四半期までは前年同期を下回り、第4四半期は前年同期を上回ったものの、前年比は18.7%減少し、2年連続の減少となった。

大口電力使用量（前年同月比）の推移（宮城県，全国）



月別業種別大口電力使用量（前年同月比）の推移（宮城県）



(資料：(株)東北電力宮城支店)

建設投資

(1) 新設住宅着工戸数

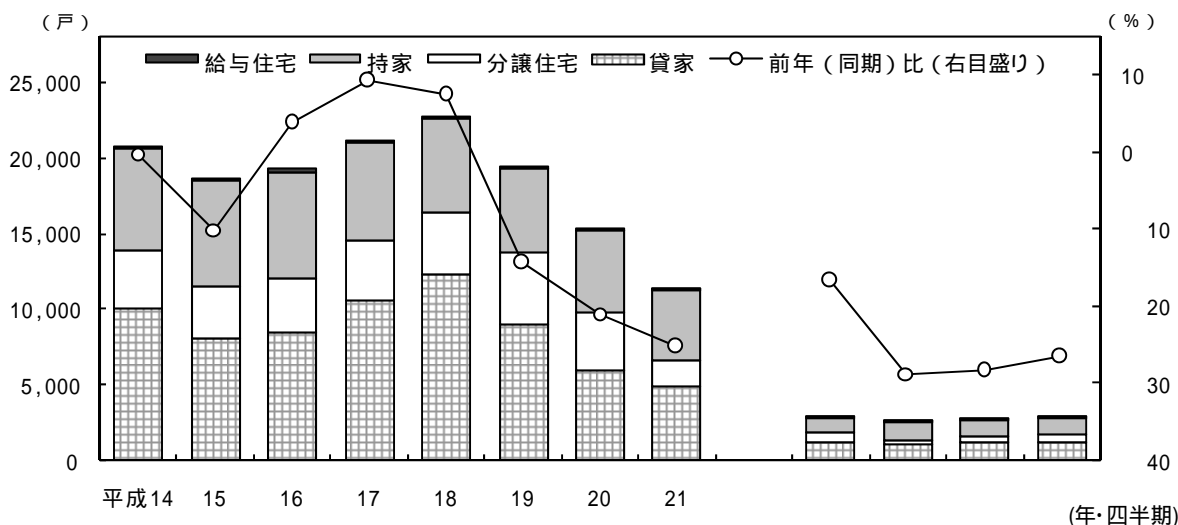
平成21年の新設住宅着工戸数は1万1,495戸で前年比25.2%の減少となり、3年連続の減少となった。四半期別に年間の推移をみると、年間を通じて前年同期を下回った。

利用関係別にみると、貸家（建築主が賃貸する目的で建築するもの）は、年間を通じて前年同期を下回り、前年比は18.1%の減少となり、3年連続の減少となった。全体に占める貸家の構成比は43.2%となり、2年ぶりに40%を上回った。持家（建築主が自分で居住する目的で建築するもの）は、第1四半期に前年同期を上回ったが、他の四半期は前年同期を下回ったため、前年比は13.3%の減少となり、6年連続の減少となった。持家の構成比は40.8%となり、10年ぶりに40%を上回った。分譲住宅（建売または分譲の目的で建築するもの）は、マンション、一戸建てともに年間を通じて前年同期を下回ったため、前年比は53.9%の減少となり、2年連続の減少となった。分譲住宅の構成比は15.4%となり、3年ぶりに20%を下回った。

新設住宅着工戸数（前年同期比）の推移（宮城県，全国）



利用関係別新設住宅着工戸数の推移（宮城県）



(資料:国土交通省)

(2) 公共工事請負金額

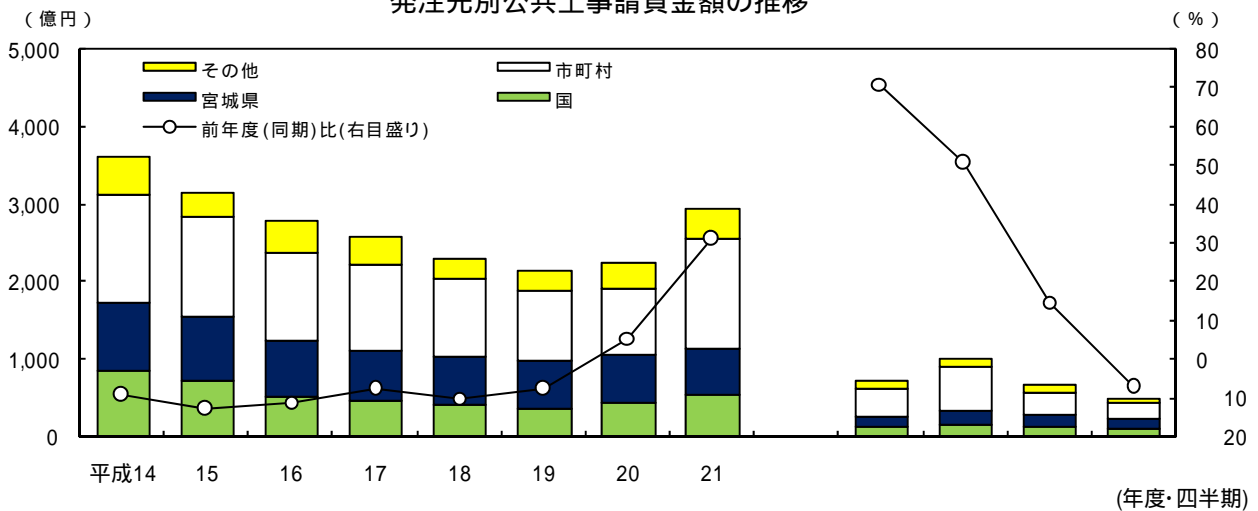
平成21年度の公共工事請負金額は2,937億円で、前年度比30.7%の増加となり、2年連続の増加となった。

年度間の推移をみると、第1四半期（平成21年4～6月）から第3四半期（10～12月）までは前年同期を上回ったが、第4四半期（平成22年1～3月）は前年同期を下回った。

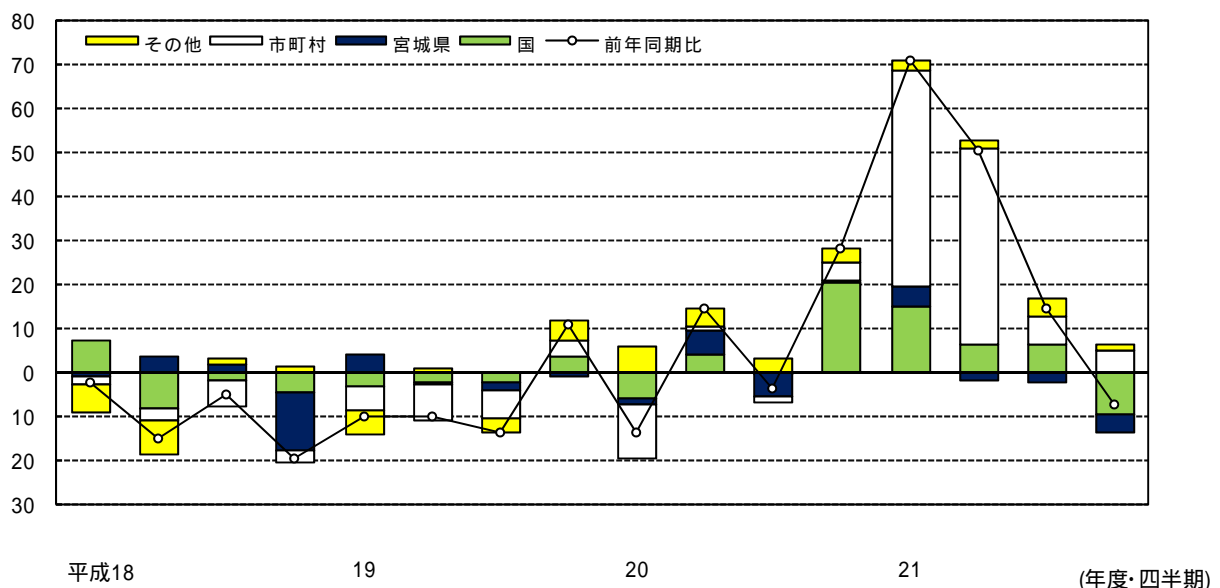
発注者別にみると、国は第4四半期で前年同期を下回ったものの、他の期間は前年同期を上回ったため、前年度比は19.9%の増加となった。宮城県は、第1四半期は前年同期を上回ったが、他の四半期は前年同期を下回ったため、前年度比は5.2%の減少となった。市町村は、年度間を通じて前年同期を上回り、前年度比は68.5%の増加となった。

公共工事請負金額は、年度をベースにしているために動向や資料は年度を基準としています。

発注先別公共工事請負金額の推移



四半期別発注先別公共工事請負金額（寄与度）の推移



(資料: 東日本建設業保証(株))

個人消費

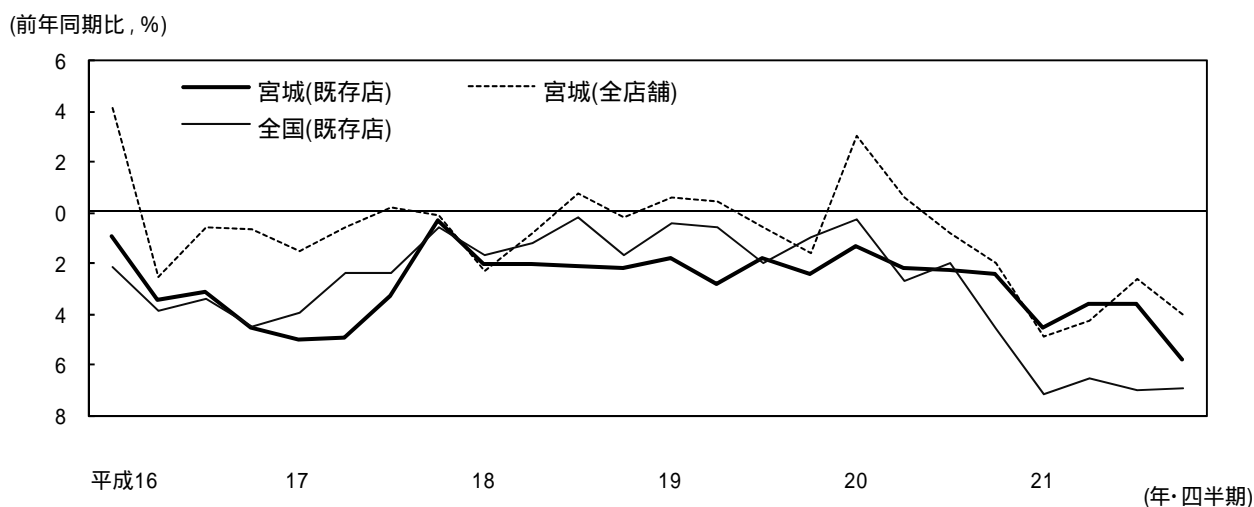
(1) 大型小売店販売額

平成21年の大型小売店販売額は、3,907億1,300万円で、既存店比較の前年比は4.4%の減少となり、13年連続の減少となった。また、全店舗比較の前年比は3.9%の減少となった。

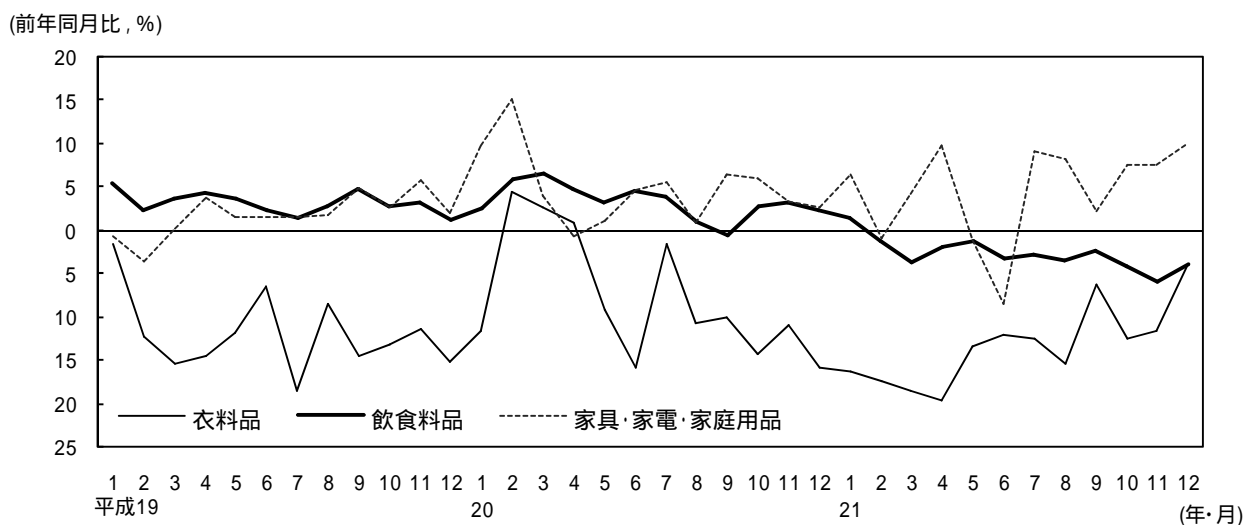
四半期別に年間の推移をみると、年間を通じて前年同期（既存店比較）を下回った。

商品別にみると、衣料品は年間を通じて前年同期を下回り、前年比は13.6%の減少となった。飲食料品は年間を通じて前年同期を下回り、前年比は2.7%の減少となった。一方、家具・家電・家庭用品は年間を通じて前年同期を上回り、前年比は5.0%の増加となった。

大型小売店販売額（前年同期比）の推移（宮城県，全国）



月別商品別大型小売店販売額（前年同月比）の推移（宮城県）



(資料:東北経済産業局)

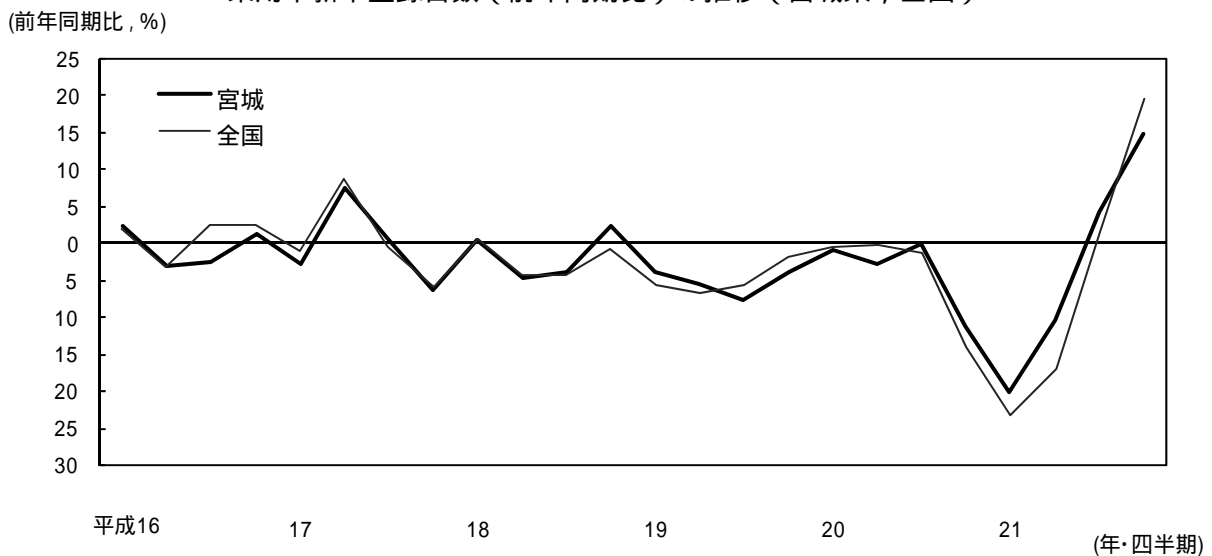
(2) 乗用車新車登録台数

平成 21 年の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は 7 万 6,404 台で、前年比 5.1%の減少となり、9 年連続の減少となった。

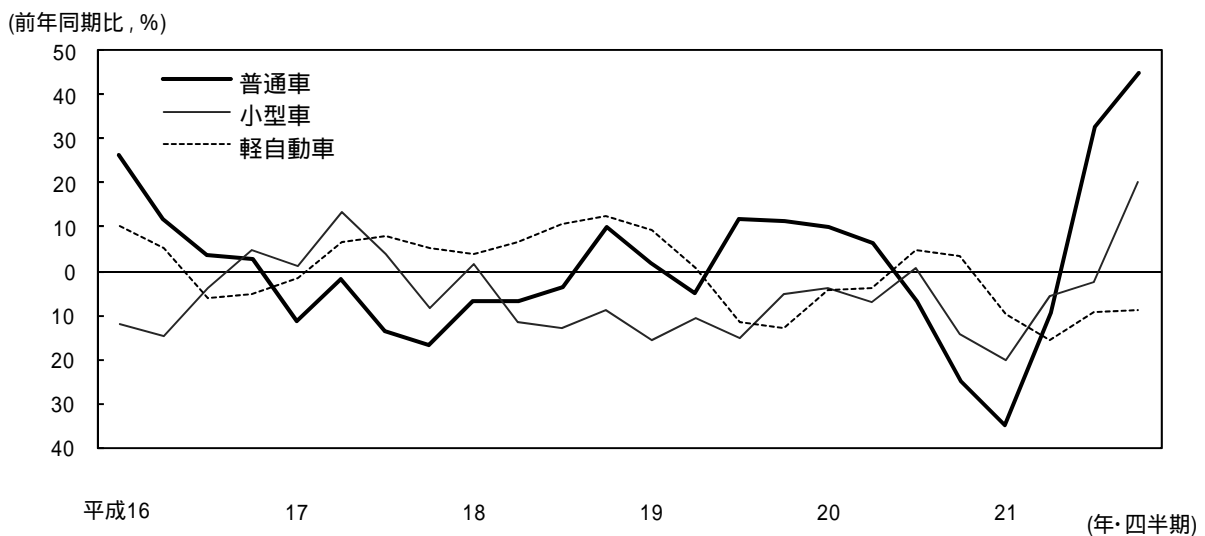
四半期別に年間の推移をみると、前半は前年同期を下回ったが、後半は前年同期を上回った。

車種別にみると、普通車は、前半は前年同期を下回ったが、後半は前年同期を上回ったため、前年比は 2.6%増加し、2 年ぶりに増加となった。小型車は、第 4 四半期に前年同期を上回ったが、他の四半期は前年同期を下回ったため、前年比は 4.8%減少し、4 年連続の減少となった。軽自動車は、年間を通じて前年同期を下回り、前年比は 10.8%減少し、3 年連続の減少となった。

乗用車新車登録台数（前年同期比）の推移（宮城県，全国）



車種別乗用車新車登録台数（前年同期比）の推移（宮城県）



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部,全国軽自動車協会連合会)

物 価

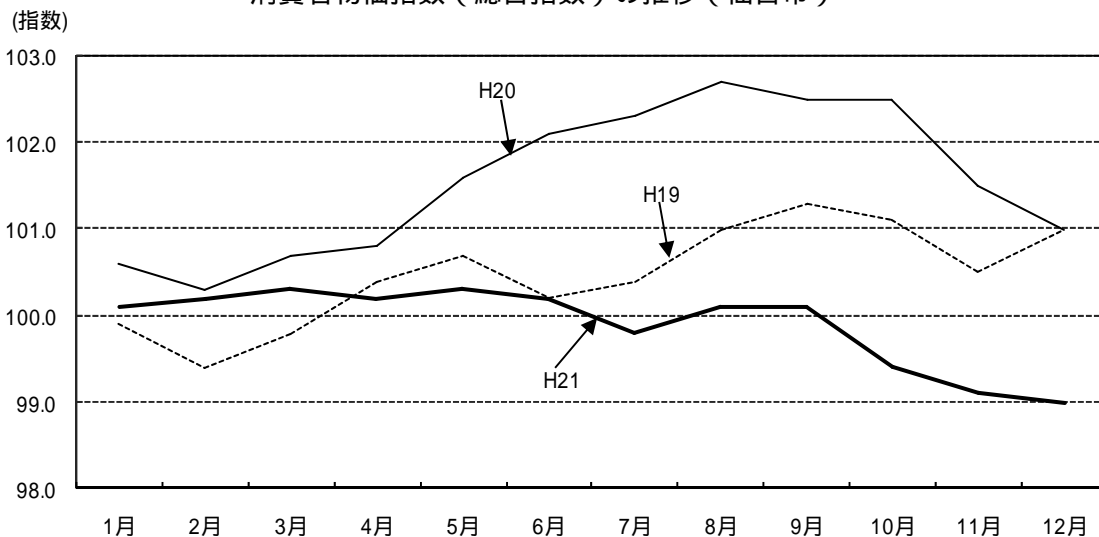
(消費者物価指数)

平成 21 年平均仙台市消費者物価指数（平成 17 年 = 100）は、総合指数が 99.9 で、前年比 1.7% の低下となり、4 年ぶりの低下となった。生鮮食品を除く総合指数は 99.7 で、前年比 1.7% の低下となり、4 年ぶりの低下となった。

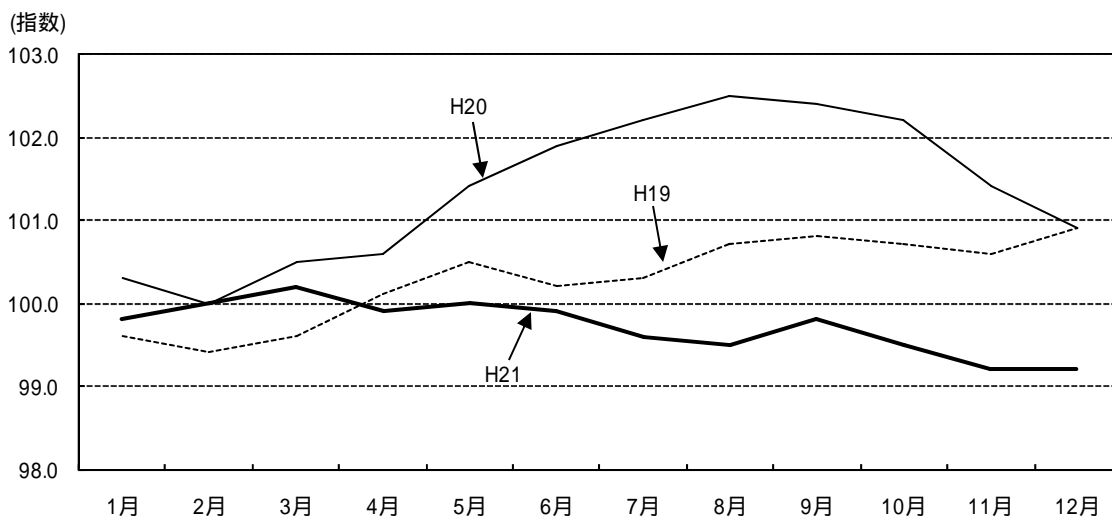
年間の動きをみると、原油価格高騰の反動による自動車等関係費、他の光熱などの値下がり、教養娯楽サービス、洋服、教養娯楽用耐久財の値下がりなどにより低下した。

月別に要因をみると、原油価格高騰の反動による自動車等関係費、他の光熱などの値下がりの影響により、1 月から 12 月まで年間を通じて前年同月を下回って推移した。

消費者物価指数（総合指数）の推移（仙台市）



消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）の推移（仙台市）



(資料出所:宮城県統計課)

雇 用

(1) 有効求人倍率及び新規求人倍率

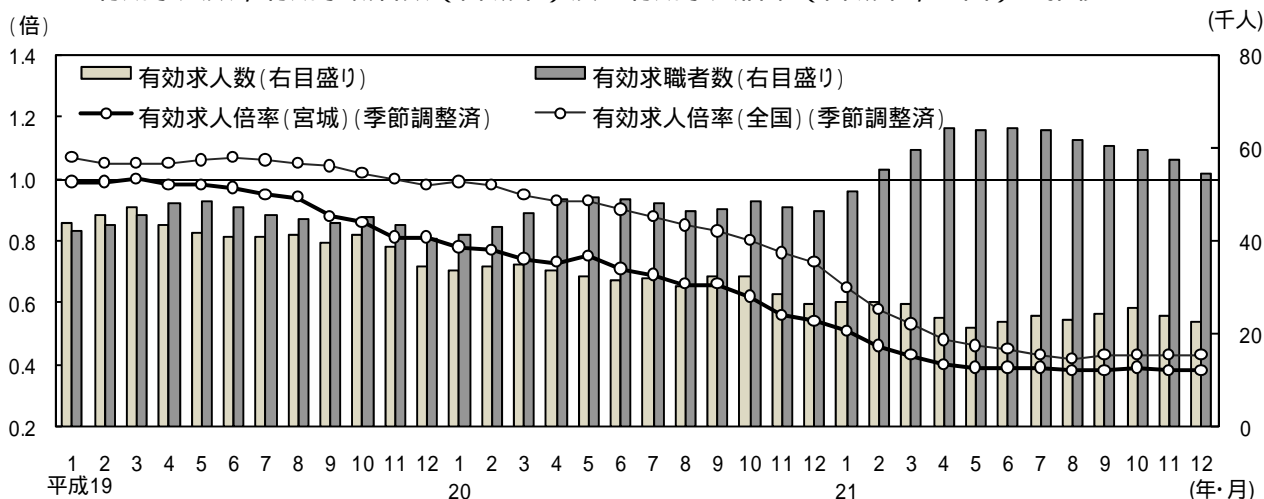
平成21年の有効求人人数(年平均)は2万4,239人で、前年比23.9%の減少となった。有効求職者数(年平均)は5万9,660人で、前年比27.6%の増加となった。これにより、有効求人倍率(原指数)は0.41倍で前年から0.27ポイント低下し、2年連続の低下となった。

四半期別に年間の推移をみると、有効求人人数は、年間を通じて前年同期を下回った。有効求職者数は、年間を通じて前年同期を上回った。有効求人倍率(原指数)については、年間を通じて前年同期を下回った。

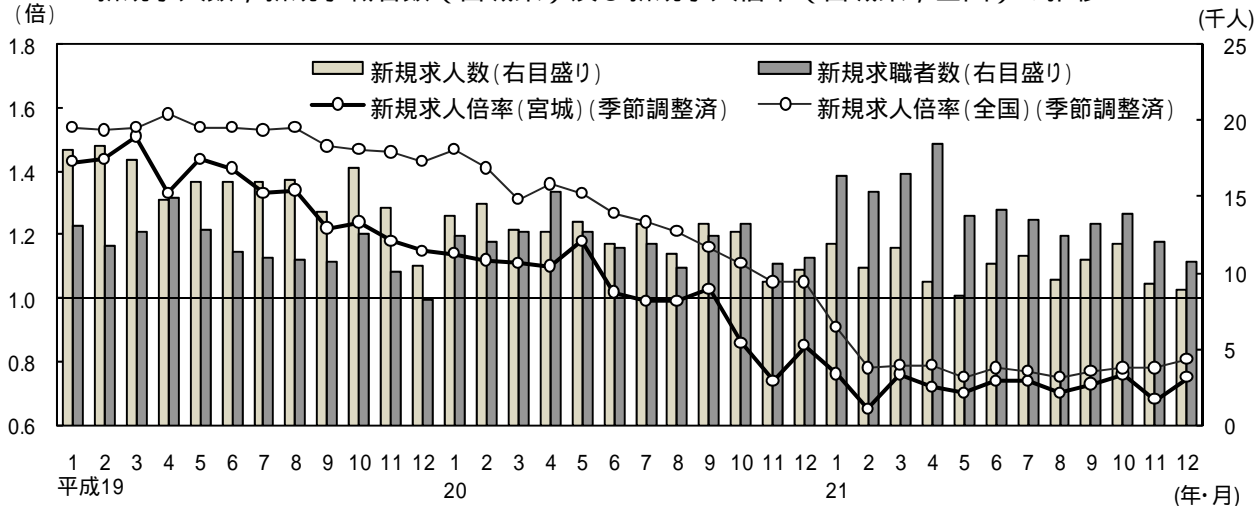
また、新規求人人数(年平均)は1万353人で、前年比16.7%の減少となった。新規求職者数(年平均)は1万4,210人で、前年比16.2%の増加となった。これにより、新規求人倍率は0.73倍で前年から0.29ポイント低下し、3年連続の低下となった。

四半期別に年間の推移をみると、新規求人人数は、年間を通じて前年同期を下回った。新規求職者数は、年間を通じて前年同期を上回った。新規求人倍率(原数値)については、年間を通じて前年同期を下回った。

有効求人人数，有効求職者数（宮城県）及び有効求人倍率（宮城県，全国）の推移



新規求人人数，新規求職者数（宮城県）及び新規求人倍率（宮城県，全国）の推移



(資料:宮城労働局)

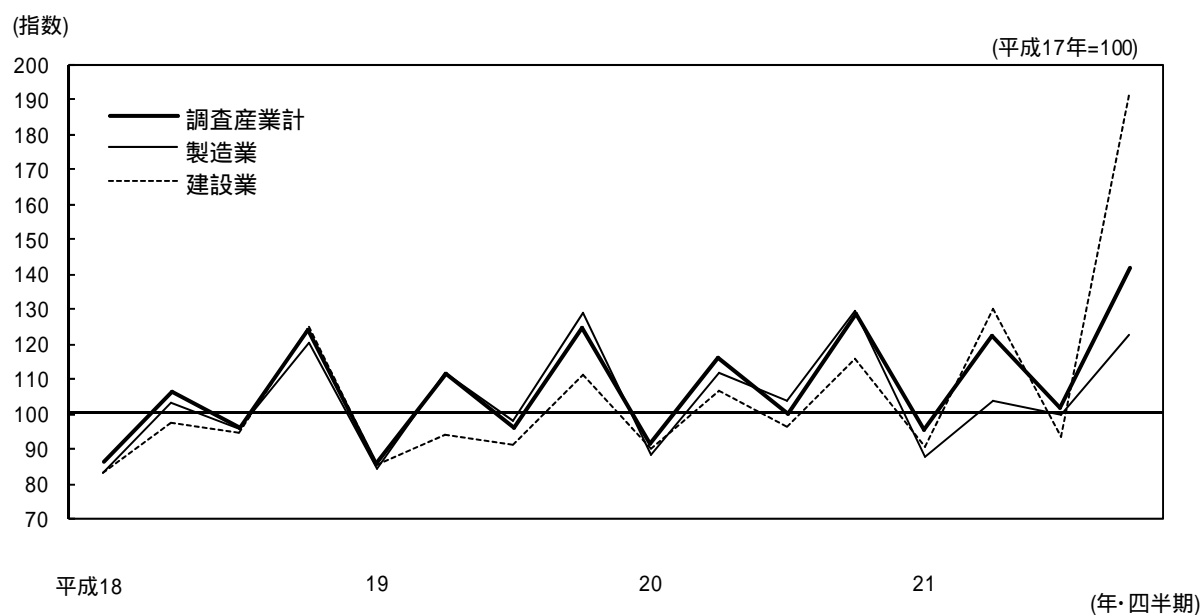
(2) 賃金

平成 21 年の実質賃金指数（平成 17 年 = 100）の調査産業計（事業所規模 30 人以上）は 115.1 で、前年比 5.7% の上昇となった。

年間の推移をみると、年間を通じて前年同期を上回った。

主要業種別に年間の推移をみると、製造業（事業所規模 30 人以上）は、年間を通じて前年同期を下回り、前年比 4.7% の低下となった。建設業（事業所規模 30 人以上）は、第 3 四半期を除いて前年同期を上回り、前年比は 23.7% の上昇となった。

四半期別主要業種別実質賃金指数の推移（事業所規模 30 人以上）



(資料出所:宮城県統計課)

倒産

(企業倒産)

平成21年の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万円以上)の件数は159件で、前年比15.4%の減少となり、2年ぶりに減少となった。負債総額は313億1,100万円で、前年比45.4%の減少となった。

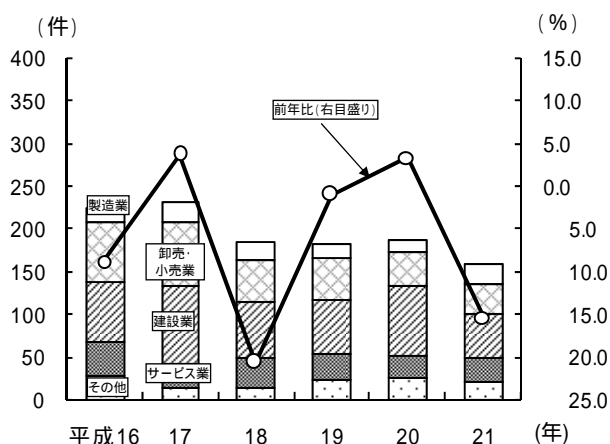
これらのうち、不況型倒産(販売不振, 売掛金回収困難, 赤字累積を原因とする倒産)の件数は132件で、前年比14.3%の減少となり、3年ぶりに減少となった。全体に占める不況型倒産の構成比は83.0%となった。

大型倒産の状況は、件数が6件で前年より7件の減少、負債総額は98億200万円で前年比60.9%の減少となった。

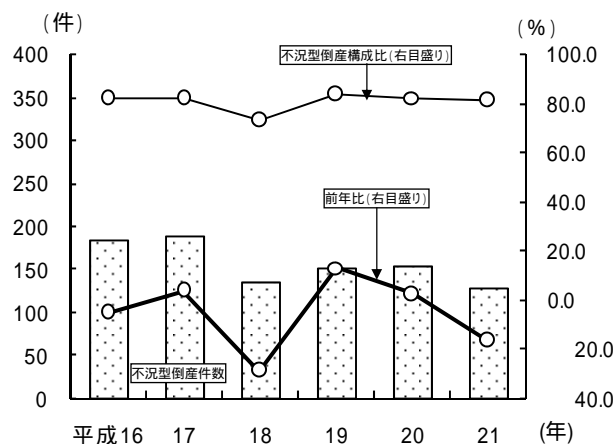
業種別に倒産件数をみると、建設業の52件が最も多く、次いで、卸売・小売業の35件、サービス業の27件、製造業の23件と続く。

原因別に倒産件数をみると、販売不振の106件が最も多く、次いで、赤字累積・その他の25件、他社倒産の余波の14件、放漫経営の8件と続く。

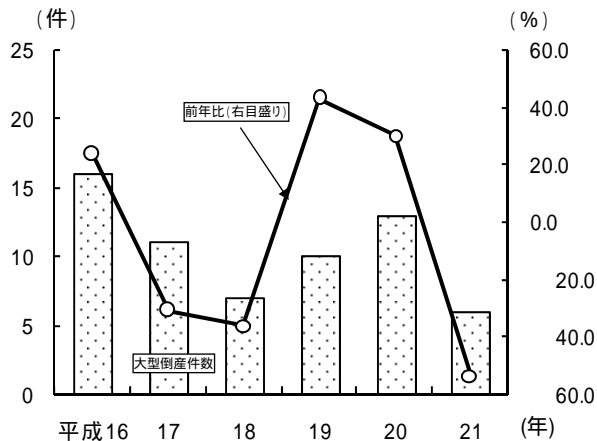
業種別倒産件数と前年比の推移



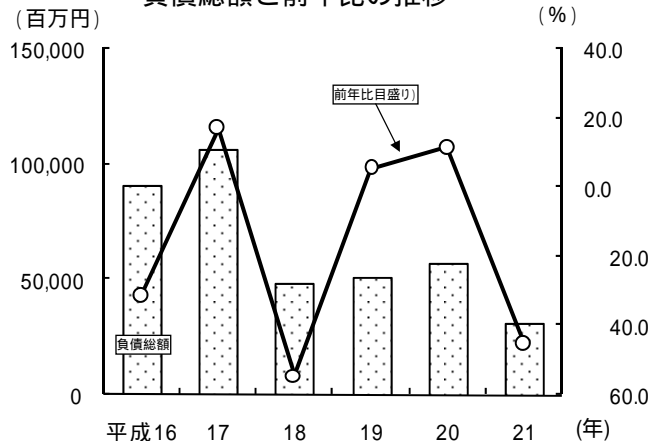
不況型倒産件数と前年比、構成比の推移



大型倒産件数と前年比の推移



負債総額と前年比の推移



(資料:(株)東京商工リサーチ)